

(記入例)

国語科 学習指導案

〇〇立〇〇小学校
指導者 〇〇〇〇

1. 学 年 第6学年
2. 単 元 名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう (読むこと)
3. 教 材 名 「やまなし」、資料「イーハトーヴの夢」 (光村図書)

4. 単元目標

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1) ク
- (2) 人物像や物語などの全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) オ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

5. 教材観

教材のどんな点に着目して指導するのか、子どもたちにとって、どのように学習材としての価値があるのかを記します。

「学びに向かう力、人間性等」が書かれていないことが多いので注意が必要です。

宮沢賢治の代表作「やまなし」を児童が一読したとき、おそらく戸籍
児童がこれまで読み親しんできた物語とは違い、単純にストーリーを追いながら読むことが難しいからだ。

「やまなし」は、「二枚の青い幻灯」として写し出された「五月」と「十二月」で構成されている。どちらの世界も谷川の底に棲むかにかの目を通して語られる。この「二枚の幻灯」を通して、かにかの兄弟が恐怖や不安にさらされながらも、やがて静かで平和な生の喜びに満ちた豊かな世界に浸る様子が、かにかの会話や美しい情景描写、比喩・擬声語・擬態語・造語の中で繊細に描かれている。前半の「五月」は、昼の谷川が舞台になっていて、弱肉強食の争いによって引き起こされる死が描かれている。一方、後半の「十二月」は、夜の谷川が舞台になっていて、かにかの親子のぬくもりを感じるやりとりや、突然自然に落ちてくるやまなしの様子が、平和な理想的世界として描かれている。このように対照的に描かれた「五月」と「十二月」を比較しながら賢治の生命観を読み解いたり、比喩や擬声語、擬態語、色彩表現、造語等、賢治独特の表現に着目しながら作品世界を想像したりすることで、児童は十分に「やまなし」を読み深め、自分自身の考えを形成することが可能となる。

また、本單元には、資料として「イーハトーヴの夢」が添えられている。ここには賢治の生き方や考え方が書かれていて、児童が「やまなし」を読み解くてがかりとなる。特に、「イーハトーヴの夢」は本單元においては、「やまなし」を読み深めるための資料とするため、「やまなし」を学習した後に読むのではなく、「やまなし」を学習している途中で活用し、物語と資料を行き来しながら読み進めるようにした方が学習効果は高まると考える。

読むことの領域の教材として、5年時には「たずねびと」「やなせたかし—アンパンマンの勇気」「大造じいさんとガン」、6年時には「帰り道」が教科書に掲載されている。児童はその中で、表現の効果を考えて物語の全体像を捉えたり、登場人物の人物像を考えたり、人の生き方を考えたりしてきた。本単元の学習は

それらの学びの螺旋状に位置づく。6年生の児童が「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を教材として学習することは、表現を味わい効果を考える力や、それを通して自分の考えをまとめる力を培ううえでたいへん意義深い。そして、それは後の「海の命」の学習で、作品について語り合ったり読みを広げたりするのにつながっていく。

6. 児童観（省略）

どのような単元の流れで指導するのか、どのような点に留意するのかなどについて記します。

指導する上で、ICT 端末を活用する良さについて触れています。

7. 指導観

本単元では、ICT 端末を活用してスライド4枚に自分の考えをまとめ、それを基にプレゼンテーションを行う言語活動を設定する。スライドを活用すると、自分の考えを入力したり削除したり、修正したりすることが容易になる。それだけでなく、限られたスライドにまとめるには、自分の考えの材料を吟味して表現する必要がでてくる。並列に並べた言葉を吟味し、取捨選択させるために本言語活動を設定した。また、各スライドが各時のまとめとなり、単元末のプレゼンテーションの活動においては、それらを俯瞰し、自身の考えを再構築できるようにしたい。

第1～5時は考えを形成するための材料を集める時間、第6時はこれまでを振り返り整理する時間、第7～10時は自分の考えをまとめ、共有する時間とし、学習過程を丁寧に辿れるようにする。

まず、第1時には、初めて「やまなし」を読み、想像したことや考えたこと、表現や構成についてまとめる。その上で、これまで読み親しんできた物語との違いを味わい、読みを深めるために五月と十二月を比較することの必然性につなげる。

第2、3時には、五月と十二月を比較することで作品世界の想像を広げ、それぞれのイメージについてスライドにまとめる。そのために、比喩や擬声語、擬態語、色彩表現、造語等、賢治独特の表現に着目させ、「生と死」「光と影」「奪うものと与えられるもの」などの観点からそれぞれのイメージを広げられるようにする。

第4時には、資料「イーハトーヴの夢」から、賢治の生き方や考え方等について知り、それを「やまなし」の読みを深めるのに生かせるようにする。その際、「賢治は〇〇な人だ」と簡潔にまとめることで、賢治のエピソードのうち、どの事柄が賢治を最も色濃く表現しているのか考え、賢治の人物像に迫れるようにする。

第5時は本時とする。この時間は、題名について考えさせる。初発の感想では、おそらく題名に触れて書く児童がいる。その児童の感想を活用することで題名に着目させ、賢治がなぜ「やまなし」という題名をつけたのかについて考えることを通して、賢治が「やまなし」に込めた思いに迫っていく。

第6時には、「『やまなし』を読んで考えたこと」についてまとめるための材料を整理する。これまでに残してきたスライドや掲示物を振り返りながら、「やまなし」を通して賢治から受け取ったメッセージについて考えさせる。これまでの材料を整理し、次時のスライドづくりにつなげる時間とする。

第7～8時には、「『やまなし』を読んで考えたこと」についてスライド4枚にまとめる。プレゼンテーションの見通しをもたせたうえで、これまでに残してきたスライドや前時のワークシートをもとに、スライドを作らせる。そして発表原稿も作成し、それらを共有したうえで推敲させる。

第9～10時には、「『やまなし』を読んで考えたこと」についてまとめたことを共有し、考えを広げる。

互いのプレゼンテーションを聞き合い、自分の考えとの共通点や相違点、共感する点等についてワークシートにまとめる。また、単元のまとめとして、教科書の「たいせつ」に書かれている内容について確認する。

本単元においては、このように精査・解釈の学習活動で十分に材料集めをさせたうえで、「やまなし」の内容を多面的に捉え、考えを形成させられるようにしたい。

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 C(1)エ ②「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて	表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。

評価規準について正しく理解していないと考えられる学習指導案を散見します。国立教育政策研究所の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を参照ください。

9. 単元の指導と評価の計画 (全10時間)

時	学習内容	主な評価規準【観点】(評価方法)等
1	■初発の感想を書く。 ・賢治について知っていることや、題名などを共有する。 ・これまで読み親しんできた物語との違いを共有する。 ・賢治の独特の表現に着目する。 ・初発の感想をスライド1枚(スライド①)にまとめる。 ・単元の学習の見通しをもつ。	【主】指導 (行動観察、スライド①) 【知・技】指導 (行動観察、スライド①)
2 3	■五月と十二月を比較し、作品世界を想像する。 ・比喩や擬声語、擬態語、色彩表現、造語等、賢治の「独特」と思う表現を見つける。 ・五月と十二月を比べて気づいたことを出し合い、共有する。(授業者が簡単な絵や図にまとめる) ・模造紙で示した「かわせみ」「魚」「やまなし」を確認し、物語の想像を深める。 ・五月と十二月のイメージについて考える。	【知・技】記録 (スライド②) 比喩や反復など、賢治の表現の工夫や特色に気づいているかの確認。 【思・判・表①】指導 (行動観察、スライド②)
4	■「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の考え方に表れた特徴をとらえる。 ・作者の考えについて書かれた児童の初発の感想を共有する。 ・「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の考え方や生き方を考え、「賢治は〇〇な人」とまとめる。 ・宮沢賢治の生き方や考え方について考えたことをスライド1枚(スライド③)にまとめる。	【思・判・表①】指導 (行動観察、スライド③) 【思・判・表②】指導 (行動観察、スライド③)
5 (本時)	■題名について考える。 ・題名について書かれた児童の初発の感想を共有する。 ・賢治が、なぜ十二月にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのか考える。 ・前時までの学習を振り返りながら、題名について考えたことをスライド1枚(スライド④)にまとめる。	【思・判・表②】指導 (行動観察、スライド④) 「行動観察」だけでなく、子どもが表現したもので見取することも大切です。
6	■『「やまなし」を読んで考えたこと』についてまとめるための材料を整理する。 ・これまでに残してきたスライドや掲示物を確認する。 ・「やまなし」を通して作者から受け取ったメッセージについて	【思・判・表①】記録 (ワークシート) とりためた材料をもとに、物語の全体像を具体的に想像する

	ワークシートにメモする。	とともに、賢治の生き方や考え方もふまえて作品の特徴を捉えているかの確認。 【主】指導 (行動観察、ワークシート)
7 ┌ 8	<ul style="list-style-type: none"> ■『『やまなし』を読んで考えたこと』についてスライド4枚にまとめる。 ・プレゼンテーションの見通しをもつ。 ・これまでに残してきたスライドや前時のワークシートをもとに、スライドを作る。 ・スライド①～④を共有し、修正する。 ・発表原稿を作る。 	【主】記録 (スライド、発表原稿) 表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、自分の考えをスライドにまとめようとしているかの確認。
9 ┌ 10	<ul style="list-style-type: none"> ■『『やまなし』を読んで考えたこと』についてまとめたことを共有し、考えを広げる。 ・自分のプレゼンテーションを確認する。 ・プレゼンテーションする。 ・友だちのプレゼンテーションを聞きながら、自分の考えとの共通点や相違点、共感する点等についてワークシートにまとめる。 ・単元の学習を振り返る。教科書の「たいせつ」に書かれている内容を確認する。 	【思・判・表②】記録 (スライド①～④、ワークシート) 「やまなし」を通して作者から受け取ったメッセージについて、様々な観点から自分の考えをまとめているかの確認。

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

単元目標がそのまま記されていることもありますが、単元目標を基に、少し具体的に記した方がわかりやすくなります。

「やまなし」を読んで理解したことに基づいて、題名に込められた作者の思いを考え、スライドにまとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C(1)オ

(2) 本時の評価規準

「やまなし」を読んで理解したことに基づいて、題名に込められた作者の思いを考え、まとめている。

【思・判・表②】

(3) 本時の判断基準

十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) への支援
賢治が題名を「やまなし」とした理由について、前時までに学習した内容をもとに自分の考えを複数の観点からまとめている。 【思・判・表②】	賢治が題名を「やまなし」とした理由について、前時までに学習した内容をもとに自分の考えをまとめている。 【思・判・表②】	五月と十二月を改めて前時までに取りためた材料をもとにして比べ、賢治が何を大切にしているのかを考えるよう促す。

単元目標や評価規準を写すのではなく、実際に判断できるような具体的な状況を想定し、「判断基準」を設定しましょう。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
10	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の見通しをもつ。 ・前時の授業を振り返る ・初発の感想を共有し、課題意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の板書をポスター印刷し、全体で共有しながら振り返る。 ・児童から出てきた言葉を、掲示物にさらに書き加えていく。 ・児童の初発の感想から作者の考えについて書かれたものを紹介することで、本時のめあてに結び付ける。 	<p>子どもに示すめあては、子どもにとってわかりやすい文言にするとよいでしょう。</p>
<p>め 宮沢賢治が、なぜ「やまなし」という題名にしたのか、自分の考えをスライドにまとめよう。</p>			
25	<ul style="list-style-type: none"> ○宮沢賢治が「やまなし」という題名にした理由について考える。 ・物語における題名の役割について確認する。 ・前時までの学習を振り返り、資料「イーハトーヴの夢」から学んだ宮沢賢治の生き方や考え方をもとに、やまなしの内容をもう一度考え、メモに整理する。（個人） ・考えを交流する。（グループ→全体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生で学習した「一つの花」や、5年生で学習した「なまえつけてよ」から、題名には作者の思いが込められていることを思い出させる。 ・これまでの学習記録（掲示）や、自分のスライドメモ②～③を見ながら振り返らせる。 ・題名について考える中で、さらにわかったことをスライドメモ②～③に緑色で書き加えさせる。 ・困惑している児童には、五月と十二月を改めて前時までに取りためた材料をもとにして比べ、賢治が何を大切にしているのかを考えるよう促す。 ・机間指導しながら児童の考えを価値づけたりつい発問したりしながら、指導に生かす評価をとる。また、児童の考えを分類できるよう考える。 	<p>【思・判・表②】 指導 （行動観察、スライド）</p> <p>評価の根拠となるものがわかるようにしましょう。</p> <p>「努力を要する」と判断する子どもへの支援について、具体的に記しましょう。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返りとして、宮沢賢治が、なぜ「やまなし」という題名にしたのかについて、自分の考えをまとめる。 ・ICT端末を活用し、スライド1枚（スライド④）にまとめる。 ・スライドを交流する。（グループ） ・ICT 端末に入力し、教師用端末に送信する。 ・考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習記録（掲示）や、自分のスライドメモ②～③も考える材料にするよう促す。 ・自分と似ているところや異なるところに注目するよう促す。 ・友だちの考えを聞き、必要があれば自分のスライドを修正させる。 ・全員のスライドをスクリーンに映す。 	